

お知らせ

症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
■乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■消化管カンファレンス 毎月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。
検討ご希望の症例がございましたら是非ご持参下さい。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

研修会のご案内

日程	テーマ	講師
11月30日(木)	進歩する脳神経外科医療 機能温存を目指した脳外科手術 近年の脳卒中リハビリテーションの進歩	脳外科主任部長 溝口 昌弘 リハビリテーション技術課 森川 真博 作業療法士
12月14日(木)	甲状腺疾患の診断と治療 甲状腺機能異常の鑑別 甲状腺がんに対する手術と補助療法	甲状腺内科 萬代 幸子 外科部長 古賀 健一郎
1月25日(木)	がん薬物療法 治療の進歩 支持療法の進歩	腫瘍内科主任部長 若松 信一 薬剤師長・米谷 頼人 がん薬物療法認定薬剤師

▶場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂

▶時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度)

【問合せ先】

北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)



第67号 ● 平成29年11月8日発行 発行人：北九州市立医療センター 〒802-0077 北九州市小倉北区馬場2丁目1-1 TEL.093-541-1831 FAX093-533-8693
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/



KMMC Kitakyushu Municipal Medical Center 2017 November news

輪

北九州市立医療センターニュース

第67号



<本院の基本理念>

わたくしたちは公共的使命を自覚し
心のこもった最高最良の医療を
提供します



HP：QRコード



FB：QRコード

最新の情報はHPで随時更新!

INDEX

福岡県地域医療構想における当院の役割	1
スポットライト・市立医療センターではさまざまな媒体を使って情報発信をしています!	2
トピックス・循環器ホットライン	3
院内紹介・臨床検査技術課 生理機能検査室	5
医療連携・『連携ネット北九州』のご紹介	6
看護の広場・7階北病棟	7
人物クロースアップ・クラシックバレエと私	8
登録医のご紹介	9
医療連携室だより	10
お知らせ・症例検討会・研修会のご案内	



福岡県地域医療構想における当院の役割

北九州市立医療センター院長
中野 徹

2025年、国民の4人に1人が75歳以上の高齢者という超高齢化社会に突入し、医療・介護ニーズの急増が予想されています。地域医療構想とは2025年に向け、病床の機能分化・連携を進めるために、医療機能ごとに2025年医療需要と病床の必要量を推測し、定めるものです。人口が増加し続ける福岡医療圏と異なり、北九州医療圏の人口は1990年120万人でしたが2025年には90万人と減少が推測されています。医療人口は減少するのですが、高齢化に伴い増加する疾患もあります。そのうち、入院を必要とする疾患は2025年までの増加割合でほぼ3グループに分けられます。

- ①【30%増加】呼吸器、脳血管疾患、骨折
- ②【10%増加】糖尿病、虚血性心疾患
- ③【数%増加】新生物、精神疾患

しかしながら、いずれの疾患も2030年以降は減少に転じる見込みで、すでに現在も減少が続いている妊娠分娩産褥症例は、2025年までにさらに20%の減少が見込まれています。

以上のような状況の北九州医療圏ですが、すでに市内の基幹病院では専門分野の機能分化が進んでいます。循環器、脳血管、整形、救急、小児周産期医療、がん治療は市民、開業医の先生方、市消防局の救急担当もこの疾患であればこの病院とほぼ理解されています。従来、北九州市立医療センターが地域に貢献している機能は、

①地域がん診療連携拠点病院としてのがん治療、②総合周産期母子医療センターとしての産科新生児小児医療、③生活習慣病の対応です。今後もこの3領域を地域医療構想内で他の基幹病院と連携しつつ市民に良質な医療を提供することに変わりありません。

当院入院患者の45%はがん患者であり、地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん診療を行っております。がん症例はもれなく「がん登録」を行い、国立がんセンターに予後を含め報告が義務づけられています。平成28年度は2,503例の登録数で、県下でも有数の症例

数となっており、厳密な予後調査により当院の予後判明率は99.8%に達しています。

2017年より全国のがん診療連携拠点病院では症例数とともに5大がん（胃がん、大腸がん、肺がん、肝臓がん、乳がん）の治療成績として5年生存率が公表されるようになりました。ステージ別や合併症を含んだマッチング比較ではありませんが、国民の情報公開希望に沿ったものです。国が「がん拠点病院」を設定した本来の目的は国民が等しく、いずれの地方においても中央と同様の良質ながん治療を受けることができるようにすることで、当院はいずれのがん種も良好な成績であり市民に良質ながん治療を提供しています。

将来的には他のがん（悪性新生物）においても症例数のみならずステージ別の治療成績が公表され、治療成績によっていくつかのがん種は施設の集約化が進むと思われます。今後も高齢化が進み、合併症を伴うがん患者の治療に際し、各科のサポートのもと質の高いがん治療を市民に提供することが当院に求められる機能です。

総合周産期母子医療センターは母胎22週から対応可能な高度な機能を有していますが、少子化が進む北九州医療圏では対応症例の減少がさらに進みます。北九州には2つの総合周産期母子医療センターと2つの周産期母子医療センターがあり、4つのセンターは24時間対応のため産科医、小児科医の過重労働が問題となり労働基準監督署より改善指導が入っております。しかし、いずれも医師不足ですぐに労務改善を行うことは困難な状態です。まさに地域構想の中で各センターが連携を推進し医師不足による医療崩壊を防ぐ必要があります。

生活習慣病に対応する機能はひとくくりでの説明は困難ですが、肩関節、脊椎のパイオニア的な鏡視下手術、オフポンプ平均3.8枝冠動脈バイパス術をはじめ循環器・呼吸器疾患、膠原病内科、心療内科、糖尿病内科で今後増加してゆく疾患に対し地域に貢献していきます。

今後も基幹病院として特徴ある良質な医療を提供することが当院の機能と役割です。



市立医療センターではさまざまな媒体を使って情報発信をしています！

北九州市立医療センターでは、2017年4月にホームページをリニューアルしました。そのリニューアルにあわせて、Facebookを立ち上げてプッシュ型の情報発信を始めました。さらに、北九州市、直方市、行橋市、香春町、荏田町と民間企業などが共同で運営している「地域情報ポータルサイトG-motty（ジモッティ）」の「行政情報」と「G-motty Blog（ジモッティブログ）」にもマップや記事の掲載を始めました。以下の図のように、これらのコンテンツを組み合わせることで、分かりやすい情報発信を心掛けています。

それでは、コンテンツごとに特徴をご紹介します。

01 ホームページ

各診療科の診療実績、対象疾患・得意分野、医師紹介などの紹介、当院の診療上の統計、当院の特色である「総合周産期母子医療センター」、「地域がん診療連携拠点病院」などの紹介、「市民公開講座」や「糖尿病教室」などイベント情報のご案内、職員の採用情報等の情報を配信しています。ぜひ以下のURLまたは二次元バーコードからご覧ください。



[URL]
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/top/iryojouhou.html>



03 地域情報ポータルサイトG-mottyの「行政情報」

市立医療センターに関する情報として、「北九州市立医療センター登録医療機関マップ」、「北九州市立医療センター地区別院内がん登録数マップ」、「北九州市立医療センター地区別退院患者数マップ」など地図を利用して発信しています。今後も当院では、地図を利用して分かりやすい情報発信を続けていきます。市立医療センターの各種マップは、以下のURLまたは二次元バーコードからご覧いただけます。



[URL]
<https://gmottygyosei-kitakyushu.opendata.arcgis.com/>



記事を利用した情報発信(G-motty Blog)



基本的な情報発信(ホームページ)



タイムリーな情報発信(Facebook)



02 Facebook

市立医療センターの病院給食や給食の中で年間24回提供している行事食など日々の情報や市立医療センターで実施しているイベント情報などをタイムリーに発信しています。今後、広報誌「輪」に掲載しております登録医療機関の皆さまの情報も随時Facebookで紹介しています。ぜひ以下のURLまたは二次元バーコードからご覧ください。



[URL]
<https://www.facebook.com/ktqiryoucenter/>



04 G-motty Blog(ジモッティブログ)

G-motty Blogに「北九州市立医療センターだより」として、記事を掲載しています。具体的には、「管理栄養士によるレシピ紹介」など市立医療センターならではの情報を発信しています。ぜひ以下のURLまたは二次元バーコードからご覧ください。



[URL]
<http://obukuro.moon.bindcloud.jp/wlwp1/category/%e5%8c%97%e4%b9%9d%e5%b7%9e%e5%b8%82%e7%ab%8b%e5%8c%bb%e7%99%82%e3%82%bb%e3%83%b3%e3%82%bf%e3%83%bc%e3%81%a0%e3%82%88%e3%82%8a/>



Topics | トピックス |

循環器ホットライン

循環器ホットラインを よろしくお願いします

地域の先生方には日頃、当院への患者さんのご紹介、当院加療後の患者さんのフォローなど大変お世話になっております。心より感謝申し上げます。

当院は地域がん診療連携拠点病院として、がんの治療に名を馳せておりますが、その他、周産期医療、生活習慣病に関しても力を入れております。社会の高齢化、糖尿病、高血圧、ストレスなど生活習慣病の終末像である動脈硬化は虚血性心疾患、大動脈疾患、大動脈弁狭窄症などの弁膜症を引き起こします。その中でも急性大動脈解離、急性心筋梗塞や不安定狭心症などの急性冠症候群、急性心不全などは発症後の迅速な治療を必要とします。当院では24時間、循環器内科医もしくは心臓血管外科の専門医が直接対応するホットラインを設けております。ぜひ、ご利用のほどお願い申し上げます。



心臓血管外科 主任部長 坂本 真人



当院の心臓血管外科は2001年に開設され、17年経過しました。現主任部長の坂本は成人心臓血管外科を専門とし、下関市立中央病院、九州厚生年金病院を経て2010年に当院に赴任しました。現在までの手術症例数は、虚血性心臓病手術は1,000例以上、弁膜症は約100例、大動脈疾患手術250例を数え、豊富な手術経験を有しています。心臓外科の緊急手術には麻酔科医師、人工心肺を操る臨床工学士、手術室、集中治療室の看護師の協力なくしては成り立ちませんが、幸い当院では職種間の良好な協力のもと、迅速な対応が可能となっています。

ホットラインは心臓血管外科医あるいは循環器内科医が常に携行しており、電話交換を介せず直接専門医に繋がります。ご利用よろしくお願いたします。

Topics | トピックス |

循環器ホットライン

胸痛、背部痛、呼吸苦、失神など 急変した患者さんがおられましたら、 いつでも連絡を!

24時間青電話(携帯電話:右)で循環器医師(循環器内科&心臓血管外科)に直接繋がります。TEL. 080-1531-8442です。迅速に対応し、患者さんが最善の治療を受けることができるよう全スタッフで最善、最良の対処を行います。

循環器疾患は心臓とそれに連なる大血管の病気です。先天性心臓病、弁膜症、心筋症、不整脈、感染症、大動脈疾患、静脈血栓や虚血性心臓病があります。特に虚血性心臓病は日本人の3大死因のひとつで、がんや呼吸器疾患とならび重要な病気です。ところで、病態が急変してなるべく早く医療施設に

搬送し、適切な治療を必要とする疾患は1)虚血性心疾患(急性心筋梗塞、不安定狭心症)2)大動脈疾患(大動脈解離、大動脈破)3)急性心不全(すべての心臓病の終末像で突然に悪化する場合)4)失神や意識障害(頻脈性および徐脈性不整脈)5)静脈血栓症(肺動脈血栓症、下肢静脈血栓症)などがあります。心臓に血液を供給する冠動脈が突然閉塞した場合は急性心筋梗塞症といい、緊急の処置が必要で多くの場合心臓カテーテル検査と引き続き、



▲循環器内科医師

副院長 浦部 由利



◀循環器ホットライン用携帯電話

▲心臓カテーテル検査風景

冠動脈形成術などの治療を行います。さらに心臓に直接連なる大血管が動脈硬化により拡大して破裂したり、裂けたりする大動脈瘤や解離性大動脈瘤があります。血行動態の破たんを生じやすく、一刻でも早い処置が必要で外科的治療が必要な場合も多い疾患です。そして急性心不全です。徐々に増悪する呼吸苦や四肢のむくみなどの場合と突然発症する急性心不全があります。高齢化に伴い、心不全の患者さんは増加しており、数年前より全国的に急性心不全が虚血性心疾患より多くなっています。緊急に呼吸と血圧など循環動態の管理が必要であり、ICUやHCUでの治療を要します。

現在、循環器内科医師6名(1名育児休業中)(写真:左)と心臓血管外科医師3名(左頁写真)です。いずれもやる気満々の医師たちです。毎日、急患対応の医師あるいは循環器系当直医は青い携帯電話をもって準備しております。市内と近隣の病院と救急隊(消防署)には電話番号をお知らせはしておりますが、開業の先生方もぜひご利用ください。必ず繋がりを直接お話を伺わせていただきます。ご利用お願い申し上げます。なお市立医療センターへ直接電話かけていただいても、青電話を持つ医師に繋がります。よろしくお願申し上げます。

院内紹介

臨床検査技術課 生理機能検査室

生理機能検査室

心電図や肺機能などの超音波検査を9名の女性臨床検査技師で行っています(腹部エコーは放射線科医師と共同で行っています)。技師の多くは超音波検査士(消化器:5名、体表:6名、循環器3名、泌尿器2名)の認定資格を有し、専門性の高い知識をもって業務を行っています。

超音波検査は、年々臨床側からの依頼が増加しています。それに伴い、腹部・体表エコー専用の超音波検査装置を追加導入し対応しています。

心エコーは近年、新しい装置の更新があり、3Dプローブにより弁の構造を詳しく観察することができるようになり、より専門的な結果の報告が可能になりました。ただ装置が1台しかなく待ち時間が長くなることがあり、大変ご迷惑をお掛けしています。

血管エコーは数年前に比べ増加しています(290件→770件)。電動リクライニングベッドの導入により、長時間の検査も負担なく受けていただけるようになりました。また、技師への負担も軽減しスムーズに検査ができ、時間短縮も可能となりました。最近では、緊急下肢血管エコーも多くなりましたが、随時対応しています。

また、診断能力向上のため、疑問のある症例に関しては、病理組織標本との対比を行いフィードバックすることにより、精度を高めるよう努力し、医師指導のもとCTとの比較検討会も行っています。そして、学会発表や論文作成にも精力的に取り組んでいます。乳腺領域では地域の中核的立場にあり、院内では年1回は北部九州地域の医師・技師を対象とした九州画像診断研究会を開催し、月2回(第2、4月曜



放射線科医師の方々と▲

日18時より)は地域の医師・技師を対象として、画像検査と最終病理組織を比較検討する乳腺カンファレンスを行っています。乳腺画像診断に興味をお持ちの方はぜひご参加ください。

生理検査はさまざまな専門分野に分かれており、それぞれ奥が深く学ぶことが多くあります。しかし、一番大切にしているのはコミュニケーションです。患者さんに寄り添うことで不安の軽減に努めています。また、技師間のコミュニケーションを大切にすることで、難しい症例についても討論し、詳細な報告をすることができています。

今後も各エコー検査の増加、新たな検査項目の依頼に対して、できるだけ対応できるように計画していきたいと考えています。そして、臨床側から頼られる検査室になれるよう頑張っていきたいと思っています。



▲医師・放射線科技師と(活発な)討論中



▲乳腺カンファレンスの様子

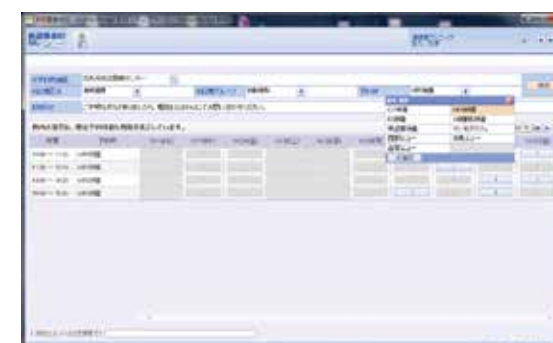


『連携ネット北九州』のご紹介

当院では、地域の医療機関とインターネットでつながった切れ目のない医療サービスを目指して、2014年2月より「連携ネット北九州」の運用を開始しました。「連携ネット北九州」では、以下の2つの機能を持ったシステムです。当院では、ご興味のある医療機関へ「連携ネット北九州」のデモを行い、機能の詳細をご説明しています。ご興味のある方は、医療連携室(TEL:093-533-8660)までご連絡ください。

(1) 検査の予約

CT、MRI、RI、X線撮影、骨密度、マンモグラフィ、腹部エコー、体表エコー、頸部血管エコーの予約が連携ネット北九州を利用すると、お手元のPCから簡単にできます。
※別途、設定が必要です。



▲検査予約画面

(2) 電子カルテ閲覧

上記検査及び内視鏡の画像とレポート、血液・生化学検査、処方箋(服薬・注射)、病理診断、細胞診断、退院時要約、中間要約、看護要約、患者情報シート、リハビリ要約を見ることができます。



▲血液・生化学検査

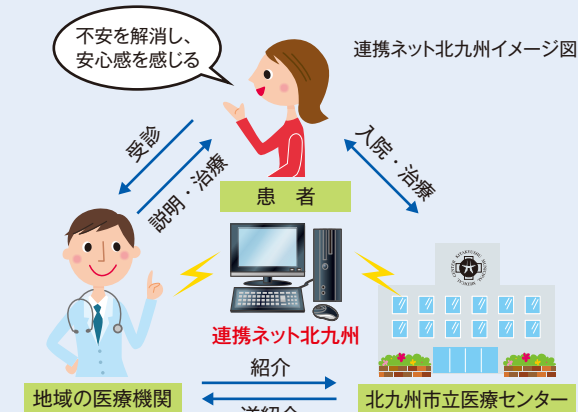


▲画像とレポート

連携ネット北九州をご活用いただいている医療機関では、当院に紹介したすべての患者さんの同意書を得た上で、入院中の状況把握や退院後に患者さんが来院した際に詳細な病状を説明することに活用しています。

平成29年度中に以下の内容について改善を行う予定です。

- (1) 心臓CT、ダッドスキャンの予約
- (2) 連携ネット北九州の見直し(検査予約取得の際に利用するカレンダー機能をより分かりやすく変更、連携ネット北九州での検査予約時に必要だったFAX送信の廃止)
- (3) 検査予約を行う患者さんの同意書を当院で取得するよう運用を変更(患者さんへの説明は、これまでどおり各医療機関で行う必要があります)





7階北病棟 ～気づくことを大切に～

7階北病棟 看護師長 上田 朋子

7階北病棟は病床数50床(呼吸器内科36床、呼吸器外科14床)の呼吸器専門病棟です。看護師26名(うち看護師長1名、主査3名)、夜勤専従看護師2名、看護補助者5名の総勢33名で力を合わせ看護を提供しています。当病棟には集中ケア認定看護師が1名在席しており、周術期の呼吸器ケアを中心に根拠に基づいた看護の提供、また看護師の現任教育に力を入れています。

当病棟は化学療法、放射線療法、手術などの治療を中心とし、毎月90名程の患者さんが入院してこれ、常にベッドはほぼ満床の状態です。急性期から終末期までさまざまな患者さんが入院されるため、多岐にわたり知識や技術が求められますがとてもやりがいのある病棟です。また、抗がん剤治療を継続するため入退院を繰り返す患者さんも多く、患者さんとの信頼関係を何よりも大切にし患者さん、ご家族に寄り添った看護を提供できるよう日々努力しております。

チーム医療にも力を入れており、医師をはじめ多くの職種と連携し、患者さんをさまざまな専門的視点からアプローチすることで生活の質の向上を目指しています。また、インフォームドコンセントには必ず看護師が同席し、患者さんやご家族をサポートしています。治療に関わる意思決定支援や医師には言いづらい患者さんの気持ちを受け止められるよう看護の力を発揮できる場面に立ち会える時間を大切にしています。常に患者さん、ご家族の立場になり、お気持ちを受け止められるよう「気づくこと」を大切にしています。

もう一つチーム医療で大切なこと…看護補助者の存在です。縁の下の力持ちとして病棟全体を支えていただいています。細かいところに気づきがあり、患者さんが快適に入院生活を送れるよう改善してくれる信頼おける看護補助者が5名もいることです。安心して(どちらかというと頼りっぱなし)仕事を任せられます。このような頼もしい仲間と一緒に「気づくこと」を大切により良い素敵な看護が提供できるよう努力してまいりたいと思います。

■今年度の病棟目標

1. 専門的な質の高い看護の提供
2. 豊かな人間性を持った看護師教育体制の確立
3. 退院支援・地域連携の強化



クラシックバレエと私

経営企画課 医師事務作業補助

倉掛 紗也



▲「くすみ割り人形」よりアラビア

パドゥは私にとって初めてのことで、大きなチャンスと嬉しさから心が高鳴りましたが、同時にプレッシャーを感じ、レッスンに打ち込むほど気持ちは焦りました。しかし、真剣にバレエと向き合うきっかけとなり、バレエの奥深さや繊細さに改めて気がつくことができました。

バレエから離れていた時期にはダンスを学び、妹とユニットを組み、観光地でもある門司港レトロで毎月、3年間ダンスを踊りました。

観客との距離が近く表情が見えるため、お客さんを笑顔にできること、特別な日にできることを知り、私自身踊る楽しさを再確認することができました。

いつも身近で応援してくれる家族や友人がいて、温かく指導をしてくださる先生と苦悩や喜びを共有できる仲間がいます。私にとってバレエは生活の一部でありなくてはならぬものとなりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

きらきらといつまでも踊り続けることを目標に、これからも日々精進していきたいです。



▲「ドン・キホーテ」より夢の場



▲レトロFMイベント@門司港

登 録 医 師 介 紹

INFORMATION

所 在 地：小倉北区米町2-2-1 新小倉ビル本館2階 院 長：藤野 時彦
電話番号：093-513-8108 診療科目：アレルギー科、
F A X：093-513-8109 小児科、内科

こくらアレルギークリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:00	○	○	○	×	○	×	×

※要予約、学会出張の時は休診

アピールポイント

2009年9月開業（継承）で、予防接種、乳幼児検診、小児科一般診療を基本とし、子どもから大人までのアレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息、花粉症など）の患者さんが北九州以外（宗像市、豊前市、直方市など）からも来院されています。

市立医療センターへの一言

入院が必要な時やアレルギー以外の病気で、診断や治療に困る時は、北九州市立医療センターの小児科、小児外科、内科、皮膚科、耳鼻科、整形外科の先生方のお世話になっており、とても感謝しています。紹介後のお返事もきちんといただけるので大変勉強になっています。以上、よろしくお願いします。



INFORMATION

所 在 地：小倉南区南方3-1-27 院 長：手島 鍛
電話番号：093-964-6556 診療科目：整形外科、リウマチ科、
F A X：093-964-6561 リハビリテーション科

医療法人 手島整形外科医院

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～13:00	○	○	○	○	○	○	×
14:00～18:00	○	○	○	×	○	×	×

※受け付けは診療終了30分前まで

アピールポイント

1998年に開業、骨粗鬆症や脊椎および関節疾患の保存療法を中心に診療しています。特に骨粗鬆症の診断と治療には開業当初より力を入れており、全身用DEXA装置による正確な骨密度評価と最新の治療を心掛けています。

市立医療センターへの一言

保存療法では手に負えない脊椎疾患、関節疾患、クリニックでは対応できない膠原病などの内科疾患など、困ったときにご紹介させていただいております。いつも丁寧な治療をしていただき感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。



医療連携室だより

新メンバー紹介と退院支援の充実について

平素より、当院の地域医療連携推進につきまして、ご理解とご協力をいただき心から感謝いたします。

このたび医療連携室には、医療ソーシャルワーカー（MSW：Medical Social Worker）2名が新たに加わりました。当院から地域の医療機関への転院相談、在宅医療・介護に向けての情報提供を行い、さらに充実した連携を行えるよう努力してまいります。

また、2016年4月より入退院センターにおいて一部の診療科の退院支援に取り組んでまいりました。今年9月より診療科を拡大（耳鼻咽喉科、消化器内科、婦人科、泌尿器科）し、外来看護師が入院予定患者さんの退院支援の初回スクリーニングを実施し、入退院センターの看護師へ連携しています。外来では患者数が多く、時間的な制限もあることから、患者さんへの支援内容を十分に把握することが難しいなどの課題があります。

しかし、外来看護が「つなぐ」のスタートとなって、患者さんのニーズを発見することにより、入退院センター、病棟あるいは地域に繋げていくことが重要と考えています。誰のために・誰と・どのように連携を図るかを意識し、患者さんの支援に繋げていきたいと思っておりますので、地域の皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

地域医療連携推進担当係長 播磨 由美



【医療連携室】

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>
E-mail:byou-iryuu-renkei@city.kitakyushu.lg.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受付けておりません。

編集後記

今年も残すところ2か月足らずとなりました。月日が過ぎていくのを本当に早く感じています。国の内外において色々と落ち着いた情勢において、当院でも2019年4月の独立行政法人化に向けて気持ちばかり奮闘しています。安寧の中、ゆったりとした気持ちで診療を行っていききたいものです。ホークスの工藤監督が柳田選手に指導したように、「穏やかな心で」。

(尼田)

【表紙写真について】

当院の研修医諸君です。若い力、生き生きとした姿は病院には欠かせません。ここは別館6階の屋上庭園です。バックの花壇はボランティアの方々に手入れをいただいております。いつも本当にありがとうございます。

広報委員会「輪」編集委員

尼田 覚 重松宏尚 坂井 寛 大津博恵 小野弘美 森崎恵美子
石井隆義 松本順子 高見将彦 佐藤美登里 天野健司 中山俊輔

新メンバー紹介



MSW
なかむら あき こ
中村 晶子



MSW
たかやま ゆう ま
高山 由磨

